

グローバル教養海外実践（フィリピン）レポート

理学部 1回生 濱口哲朗

今回のフィリピン研修は私の人生にとって、とても大きな意味を持つものになった。フィリピンでは、貧富の差や戦争、命の大切さや仲間の大切さなどを学んだ。それぞれについて掘り下げてみる。

まずフィリピンの貧富の差の問題についてである。私たちは、ゴミ山の中で生活する人の生活とフィリピンの富裕層の生活を1日の中で体験した。それにはとても差があって、富裕層の人の話し方からも格差が根付いているのを感じた。また、街中を見ただけでもビルとスラムらしきものが混在しているのが一目瞭然で、このことから格差を感じた。日本にも格差というものは存在するが、フィリピンと日本の格差では少し違うところがある。フィリピンでは、本当に飲み食いができないような貧困が多いが、日本では平均の賃金の半分以下で暮らし、食べ物は食べられるが、生活が制限される貧困が多い。途上国と先進国の差を感じた。フィリピンの貧しい暮らしをたくさん見てきて、日本は本当に恵まれているんだと感じた。トイレは整っているし、お風呂は当たり前にお湯が出るし、ルールもきちんと整備されているし、ご飯は美味しくて豊富だと、改めて感謝しなければいけないと感じた。また、フィリピンの貧困地区の子供達と触れ合ったのだが、そこの子供たちの笑顔は本当に屈託のない真っ直ぐな笑顔で、この子供たちの幸せってなんだろうと考えるきっかけになった。つまり、日本の子供達以上の輝きと生きる意志を見て、私たちが支援するのはおこがましいのではないかと考えるようになったということだ。裕福な暮らしが必ずしも幸せではないから、幸せとは何かをこれからの生活でも探そうと感じた。

次に戦争、命の大切さに関して掘り下げる。私たちはフィリピンで鳥のと殺を見学した。私はそのような光景を見るのは初めてで、最初は大丈夫だろうと思っていたが、ずっと見ているうちに、泣いてしまった。どうしてかと自分なりに考えてみると、1つは19年間今まで生きてきて、ほとんど毎日三食が満身に食べられて、その中には必ず何かしらの多くの命が含まれていて、今日の鳥の死は決して今日だけのものではなく、今までの全てのものだったんだと考えたとき、重くのしかかってきたからだった。もう1つは、そのと殺されている鳥を人と置き換えてしまったからだった。と殺以前に私はフィリピンと日本の戦争について研修で学んでいたのだが、正直にいうとそこまで興味を持たず、こんなことがあったんだとくらいにしか思えなかったが、と殺みたいな行為が人間に平気で行われていた時代があったんだと思うと、戦争への恐怖と嫌悪が一気にのしかかってきて、戦争の見方が大きく変わった。今まで生きてきて、こんなにもガラッと何かが変わったのは初めてだったのでとてもびっくりしたが、自分は思っている以上に感受性が豊かだなと思えて嬉しかった。戦争への見方が変わったことを話したところで、私たちが学んだフィリピンと日本の戦争について話す。日本は第二次世界大戦でフィリピンを支配しようとし、数々の残虐な行為を行ってきた。今回学んだ中で代表的なものはバタン市の行進、通称デスマーチと呼ばれるもので、何日もの間、飲み食いなしで、長い距離を強制的に歩かせるもので、捕虜であったフィリピンの人々を半分以上殺した残虐な行為だった。デスマーチを経験したおじをもつ人の話も聞いて、残虐さをひしひしと感じたし、それに関するモニュメントや博物館を訪れ、日本がしてきたこと

を知った。私は今まで日本はどちらかと言うと原爆を落とされ、被害者のようなイメージが強かったが、日本人はもっと加害者の意識も持つべきだと強く感じた。今の子どもは、自分も含め昔起こったことを知らないことが多く、今回学んだことはフィリピンの子供たちでさえ知らない人が多いようであった。私たちは過去を知り反省しなければならない。

最後に仲間の大切さについてである。今回の研修は本当に仲間に助けられた。私たちが参加した研修は NPO 法人 CFF というボランティア団体が主催しているもので、全国からこのボランティアに参加したいという意思を持った人たちと一緒に回るのだが、本当に色々な意見を聞くことができるし、人生観がガラッと変えられた。この研修の最大の特徴であるシェアと呼ばれるみんなと本音の対話をするのが、私たちの仲をより深くし、本当の意味で考えることができた。私はたった9日間だったがみんなのことを友達以上の家族のような存在に感じており、研修が終わった今でも LINE や電話などを通じて、日本に帰ってきてこれから何ができるかなど、毎晩のようにみんなとシェアをし、意識と一緒に高め合えられる存在となっている。日本に帰ってきてからも、フィリピンで感じた事、考えた事を忘れたくなくて、1人だと日常生活に流されて忘れていきそうなところを必死に食い止めようと、みんなと話して今を保っている。また、自分が日本でアクションを起こせば必ずついてきてくれる仲間で、本当に大切な存在となった。このような仲間を手に入れられたことが今回の研修の最大の贈り物かもしれないと感じた。

これから、研修に参加する人達には是非このフィリピンスタディツアーを選んで欲しいと思う。私の価値観をガラッと変え、感動さえ覚えている。これをみんなにも味わって欲しいと思う。